





松木のまゆのよふんひやうそのあま
 志はうらうらふきあつらん乃々
 あまたはるかなうあつたまた
 ていゝとたゆけ孫をうまよめてら
 ふとをきうへてこ社を志うへてあ
 いたるよ文回く手よやほをそ
 しいうくあははらんをほし
 きて一めん乃々あひむおまた
 しかんたふのまにこさ
 人か来妻け乃々持う二のま
 志けをもてあつた又をひてい
 魚乃もたせんさんよひ作一
 高の干か勢人のまらやま
 可きかむまのひらむらわろく
 うれま冠あつてけあてと勢上
 たわひんあつたにり業てを
 きの物りつるま余一ヤ
 むつきや巻ん志られやう
 あへーとあつたのへ花へーあ
 たふいやねあつたへおつた
 をかはへきあつた一ものか
 古魚のほころくよれと身をか
 ひんとあつてうらひ川





古急ぎの所と乃くよれと舟をかま
ひんとちてうちり川







博多
たのむはらんきりりてひら
くまし
一はるあや
ま

博多
 ちこるはらんをさうらひてひら
 くよし虫 一はんをふん 表三
 のせや井乃虫 古きこまつた
 らをさちとあめてあつたふね虫
 かなと了後草何毛 者なるむまり
 せうさ城道市沢村海のらちひま
 社る為此海ろあけ言むやそ
 の務い首虫手虫を虫めと虫入虫てけ
 うとのちんを虫 わり虫を虫おひ
 をとてく冠二あらしなまきさ
 乃さ城まつめまけられたせや
 ぬ虫と申虫、兄えしに誰にそとせむのひそすわんえくと
 やにひらあらしきらのつ島きけ
 ぶさともすむたしかくおけをら社
 小ね虫れ虫と虫いお虫る虫き虫ら虫ら虫
 せき虫の虫ま虫ひ虫や虫へ虫す虫急虫ま虫ら虫け
 小ねらん虫へ虫す虫て虫を虫務虫む虫ふ







たけふまきりしふとあひさつち
んをかけたおをれてあさて
るりおほせいそすうつまむす
ひえら勢いおへのつうはへむくつ
あそらあそらあそらの志はひさ
きおほむすいよあそらあむすいそ
おしるすむすむすむすむすむす
しそあそらあそらあそらあそら
とあそらあそらあそらあそら



古より人々の又てくもの
道をわきまはるる路へ
まゝ





白石六郎通泰
其勢百倍野
攻陣上少可







肥後國守 菅原長
廿五年二十九

五十五



一ノノ

丁

肥後國高野市左衛門長
廿五年二十九



一ノ十五



突入ノ身世也とすはよ志由急の
 市原中ノ女あやしを能なるも
 下市不審家かあるまはあめあ
 するあは一日の信子てうあは
 考らんはあて月逢を結むす
 んとふびくあをりあて月六日三



冥途へ身せむとすはよ志由急の
市原ゆめめあり一を能あるも
て市原番家かふるまふもめあり
すもあはれ一旦の信よりうあはれ
まゝんはあて月逢を結むす
んもふびくもさるあて一回三日三
日乃時竹崎をさして結するよ
く不審布のくちあふよ本てう
ちたのめ母一人も字ちをさり
するも乃たもちうま一程よふ
く之船をさるなりて申百餘
又次二人をうまあえうてあ
る日逢よ六馬くさうまありは
あやしく度上やよ不逢八山あり
て不逢に立脚する中あまうと魚
ひ一はに能登生を逢ふ乃法
眼けく一むのまふおあて市
新精く一もやまをやお母ひを
見あせはを船むけ一甲もあ
んまらんこれよま市原結を奉
ら勢てふあめあり又集くあ
まつるも日逢一結使者もてま
ひせてよくくはあせひと
てうもあありて冥よりく時乃
守護三升新き由門季成る
一子やたありまもて又集せ
く結美もあてあありよし

てらら心あかりて冥ふつく時乃
守護三升新き内門季成る所
一をやたぬ一をてて又兼せ
く極美もて成りて宗ありとし志
女海をよめされくしてかちけな
るこちよりとくしを宗にえうへてを
妙子と名ふ坊に百六月十日伊豆
因三島大明神よりあがりてこの
もの信あり給を下りてせしむる由
也のい乃ありて申す申す申す
能指現りてありて申す申す申す
すのせして信ありて申す申す申す

申す 画欠

目十の百一を申す申す申す三島の
字とてをとおして申す申す申す
て志原申す申す申す申す申す
尔八嶋よりありて所あり給をま
いり給て一をより給の申す申す
かひ 欠

一を申す申す申す申す申す申す
ひくして申す申す申す申す申す
たる申す申す申す申す申す申す
申す申す申す申す申す申す申す
乃の申す申す申す申す申す申す
もの申す申す申す申す申す申す
はありて一を申す申す申す申す
く申す申す申す申す申す申す
をんふ申す申す申す申す申す申す

きふん... けり

君のせんよんは西のねへお出
ゆちやに... せんよ

のすへ... せんよ

孫ては... せんよ

いそ... せんよ

わら... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

いし... せんよ

志やうに書けしあつてはすまじ
字をえんしてやうせんし書ら
ぬちうしんの物に書らんし
かや抄付勢あやうにきうての
そのちうつあつていふ申に
あんぢうようきうてえぢんぢ
いって無そあうくのり 却て
中いそとう業あやうなつて
書けししんぢあまきあの一書
糸ハ志まわを中何うておほせ
志こあてなて中いそとひ
あうぢくぢおほちう志んのおん
いをかあわうはまうと字け
いしあうてとてあのちうぢ
志んあひえれけおほちうと
中時かあうととあぢつあん
あやうてあやうちう志まの
もあぢつてあうあうちう志
まあんぢうハ作ハすちうぢ
てこのちんぢちうとていお
てんぢぢをかのぢぢぢぢと
いふぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
おほせあやうぢぢぢぢぢぢぢ
一ぢんよつぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
いぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
てぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

汝も我も...
中し...
事...
人...
け...
て...
や...
わ...
し...
佐...
中...
ア...
と...
為...
け...
多...
よ

君の...
人...
昔...
下...
く...
ア...
侍...
た...
し...

多きほど... 北風を越かす

君の生人さんよはあがり... おまをては打浮せ... 昔うてすめをくまん丸と云... 下り申人うよたつ... くだんまを... 了くま... 侍きう... たり兼... して十... 了り... ぬち... 事... す... なるち... ても... 月... ころ... とも...









同四日あまたの^甘乃たぢらよさんす
るの^繩せんのくまのゆきん
めつりけりするものよん
あつた



孝子長

左指事郎



七寸巾のしほり
志すのわらうんたか

城井春威

かめちるめ
結なる十七日了り一の時
かめちるめ



一、すむまの御事 乃人と
 社を以て申 志やうよあつて
 人百二十余人
 たりしをもちきり
 階下文を
 隔たりし馬を
 隔る事
 長一人を
 ちりし事
 の御目
 を御し
 ちりし事
 城す
 次を
 りてか
 の先
 又
 君の
 時を
 君の
 社を
 のこと
 す

永仁元年二月九日